

**プログラムの概要**

- 1) 農村環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産の確保、再生可能エネルギーやバイオマス資源の利用などに関する学識を身につけ、社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。
- 2) 農業環境工学科では技術者の育成を目標として、「水土環境工学Aコース（環境計画コース）」、「水土環境工学Bコース（環境基盤コース）」、「食料生産システム工学コース」及び「環境共生学コース」の4つのコースを設定しています。学科に入学した学生は、1年次終了時にこれらのコースのいずれか1つを選択した後、2年次の専門教育科目の履修を経て、2年次の後期開始時に確定し、各コースに所属します。さらに3年後期に卒業論文研究の指導教員を選択し、卒業論文作成に当たります。
- 3) 農業環境工学分野で活躍できる人材として、①田園空間の創出プランニングや環境影響評価に携わる専門技術者、②地域の環境と調和した持続的な食料生産の基盤創出に携わる専門技術者、③IT活用型の生産環境システム開発や食品の流通・加工、地域資源循環に携わる専門技術者、④人と環境の共生をめざした地域計画や資源管理に携わるゼネラリスト的技術者、の輩出をめざします。
- 4) 卒業後は、①国・県・市町村及び各種団体の農村環境整備・生産基盤整備関係技術者、調査・設計コンサルタンツ、土木建設関連企業、②国・県・各種団体の農業機械・施設分野の技術者、農業機械・施設開発企業、農産物・食品の流通・加工機械・装置の開発企業の技術者、地域資源管理企業の技術者、として活躍できます。
- 5) 2003年度からJABEE（日本技術者教育認定機構）により技術者教育プログラムの認定を受けています。これにより卒業と同時に修習技術者として技術士補の国家資格を得ることができます。

**達成目標**

1. 知識・理解
  - 1) 広い人文的素養を培うとともに、食料の持続的生産・供給、地球環境の保全と修復、動植物の生命現象の解明、食料を通じた人間の健康の維持という農業・農学の役割について地球的視点から多面的に理解・認識できる。
  - 2) 高度な食料生産、快適な農村生活、豊かな自然生態系が調和し、持続する田園空間環境の実現をめざし、これら田園空間環境の創出・制御に関わる基礎として、数学、自然科学及び情報技術に関する知識や工学的手法・アプローチを修得でき、現場での関係する課題・問題の解決に応用できる。
2. 当該分野固有の能力
 

農業環境工学分野の専門技術に関する知識、理論及び技術を習得し、それらを駆使して、現実的課題を探求し、組み立て、解決することができる。

  - ・ 水土環境工学Aコース（環境計画コース）  
うるわしい田園空間の創出のプランニングや環境影響評価に関わる高度な知識・技術が習得できる。
  - ・ 水土環境工学Bコース（環境基盤コース）  
地域の環境と調和した持続的な食料生産の基盤創出に関わる高度な知識・技術が習得できる。
  - ・ 食料生産システム工学コース  
IT活用型の食料生産環境システムの開発や食料流通・加工、地域資源循環に関わる高度な知識・技術が習得できる。
  - ・ 環境共生学コース  
人と環境との共生をめざした地域計画や資源リサイクルに関わる高度な知識・技術が習得できる。
3. 汎用的能力
  - 1) 現代の人間社会及び自然環境に対する技術の役割や影響を正確に理解し、技術及び技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、行動できる。
  - 2) 課題研究を重視した教育を通して論理的な思考力、記述力、口頭発表の表現力、議論する能力、及び英語を含むコミュニケーション能力が養われ、与えられた制約の下で計画的、自主的かつ継続的に仕事を進め、まとめることができる。

[プログラムを通して獲得が期待される態度・姿勢]

  - 1) 社会的要求・課題を正しく理解・認識する能力が養える。
  - 2) 実験・調査を単独あるいはチームで実行し、得られたデータを正しく解析する能力が養える。
  - 3) 直面する課題に対して、専門的知識・技術を駆使して、総合的考察をもとに問題解決に導く能力が養える。
  - 4) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力が養える。

[プログラム履修にあたって望まれること（アドミッション・ポリシー）]

  - ・ 環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関心があり、かつ情熱のある人
  - ・ 広く社会や環境に関わる問題意識を持ち、課題解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を持つ人

**履修要件（アドミッション・ポリシー）**

1. 求める学生像
  - (1) 数学系・物理系の基礎学力がある人
  - (2) 環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関心があり、かつ情熱のある人
  - (3) 広く社会や環境にかかわる問題意識をもち、課題解決に向けて自ら考え、行動をおこす意欲と能力をもつ人

これらを判断するために、以下のような基本方針で入学者の選抜を行っています。

2. 入学者選抜の基本方針
  - (1) 高等学校までの教育課程をふまえて、基本的な学力と思考力を備えているのか判断します。
  - (2) 数学・物理分野の基礎学力と学ぶ意欲も評価します。
  - (3) 論理的な思考力、主体的な姿勢、社会的な問題への関心なども考慮して評価します。

**到達目標に達するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）**

農業環境工学科では、「水土環境工学Aコース」、「水土環境工学Bコース」、「食料生産システム工学コース」、「環境共生学コース」の4コースの教育システムを設定しています。学生は1年次終了時にこれらのコースのいずれか一つを選択した後、2年次前期の専門教育科目の履修を経て、2年次後期開始時に選択コースを確定します。

1年次に共通教育科目として初期セミナー、リテラシー教育科目（外国語、情報処理基礎等）を履修し、これに加えて人文、社会、自然科学系の教養教育科目を履修します。卒業要件として必要な専門科目は、1年次より農学部コア講義・実習、数物系基礎科目の履修に始まり、2年次以降4年次にかけて選択した各コースの必修科目を履修し、専門性を深めていきます。

**修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）**

達成目標に到達するため、共通教育科目34単位以上、専門教育科目92単位以上、合計126単位以上の取得を条件とします。

